

ひとつの遺跡にある長い歴史 ... 川西C遺跡の場合



川西C遺跡の位置。帯広市西15条南40丁目。

川西C遺跡は、帯広市西15条南40丁目、稲田小学校の周りにある遺跡です。

この場所は、およそ4万5千年前から札内川がけずり残していった段丘の上です（p54）。すぐ北側では、八千代（帯広市）から流れてきた売買川が段丘の角をけずり落とすように流れ落ち、札内川に向かっていきます。

この遺跡では、76ページにあるように、およそ2万1千年前の石器や顔料のもとなどが見つかっています。旧石器時代のキャンプ生活の中でも、どちらかというくと長くとどまって、狩りの準備などをする「ベースキャンプ」だったと考えられています。（/）



川西C遺跡の発掘調査。

（写真：帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵：1）

しかし、ここを人が利用したのは、その時だけではありません。

およそ1万3千年前、まだ氷期（p52）ではありますが少しづつ暖かくなってきたころ、ここに再び人がやって来て石器を作り、たき火をしていました。

続いて、およそ8千年前、今とほとんど同じ暖かさになったころ、今度は石器を使う人々がここで暮らしていました。すでに縄文の文化（p84）になってい

ました。縄文時代のものとしては、ほかにおよそ6千5百

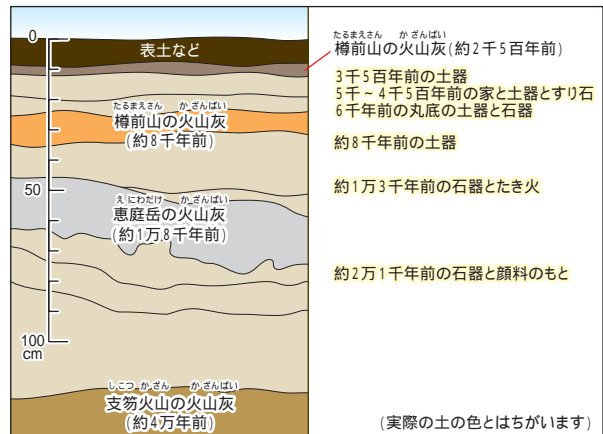


川西C遺跡に人がいたことがわかっている時。くり返し人がやってきている。

年前の土器が大量に見つかり、さらに6千年前の丸底の土器と石器、5千~4千5百年前の小さな住居あとと土器やすり石、3千5百年前の土器が見つかっています。最も古い時からすでに1万7千年（以上）たっていたころです。さらに、共栄通をはさんで西側にも「稲田1遺跡」があり、ここでも旧石器時代と縄文時代の遺跡が見つかっています（p92）。

いい方を変えれば、稲田小学校のあたりは、1万7千年の時をこえて、たびたび人がやって来ていた場所なのです。川西C遺跡だけでなく、多くの遺跡が同じようにたびたび使われています。

ただし、ずっと絶え間なく人がいたわけではありません。ある時期人がいなくなって、数百年たってから、別の文化を持った集団がやって来る、ということがくり返されているのです。



川西C遺跡の地層イメージと見つかったものの年代。

それよりあとはどうでしょうか。縄文時代に続く縄文時代（p100）や擦文時代（p102）、開拓期のアイヌ文化期においては、狩りや植物採集などをするための生活空間（イオル p150）として利用されたでしょうし、あるいは集落がつくられたことがあったかも知れませんが、その遺跡は残っていません。

それではおよそ3千5百年前を最後に、人が住みついていた証拠はないのでしょうか？ いえいえ、その3千5百年後、また多くの人々がもっと広い範囲に広がって住みついています。たくさんの方が集まる巨大な建物

も建てられました。そう、今の住宅地と稲田小学校です。

第1章 十勝の平野や川がでるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん

1 帯広百年記念館埋蔵文化財センター（おびひろひゃくねんきねんかんまいぞうぶんかざいセンター）：帯広市西23条南4丁目26 電話 0155-41-8731 日・月曜日休館